

# 11月3日～4日、岩手県に自然エネルギー見学の旅 牛糞発電から集中暖房の街作りまで

NPO きらきら発電・市民共同発電所は、11月3日～4日岩手県内の自然エネルギーの取り組みを見学する旅行会を実施。会員21名が参加しました。

## 紫波オガールで集中暖房

最初に盛岡市のベッドタウン紫波町のオガール・町役場を見学。ここは町役場を中心に、図書館・保育所・新興団地に薪ボイラーを使って、集中冷暖房を供給しています。風呂のお湯も、冬の暖房も、町内で育った薪が使用され、「エネルギーの地産地消」が実現しています。



## 「わが愛は山のかなたに」原作者高橋実先生の志和診療所も

紫波町には、きらきら発電水戸部理事長の大先輩高橋実先生が若き頃診療活動をした「志和診療所」がほぼそのままの形で残っています。高橋実先生は志和での診療活動を「わが愛は山のかなたに」という小説にしたため、それが戦後映画化(池部良主役)されました。

## 葛巻町で牛糞発電・地中熱利用・ペレットボイラー見学

岩手県葛巻町は早い時期から風力発電を導入し、自然エネルギー100%の町作りに成功しました。葛巻町は明治25年にホルスタイン種を導入した酪農の町。そのため大地に草原が広がり、風力発電の設置しやすい町になっていました。町は第三セクターを立ち上げ、平成11年から風力発電を稼働。平成15年には民間が12基設置し、一躍風力発電の町になりました。

現在町内で飼育されている牛は8,510頭。夏は放し飼いですが、冬は牛舎で過ごします。冬大量発生する牛糞を処理するため、「畜糞バイオマス発電」を平成15年に導入。今では町内一般家庭から生ずる生ゴミの処理まで行っています。

さらに町内の森林を資源にしようと薪ストーブ・ペレットストーブの活用を補助金付きで町民に訴え、薪ストーブ72台・ペレットストーブ21台が導入されました。またエコ住宅用に、地中熱ヒートポンプや太陽熱温水器の活用も訴えています。

## 日本初の地熱発電所、2万kwの松川発電所

翌日は八幡平のふもと松川地熱発電所を見学。松川は日本発の商業用地熱発電所。300度℃を越す蒸気が噴出。発電に使用された蒸気は、そのまま地元松川温泉や東八幡平温泉の源泉として利用されています。日本は世界でも有数の火山国。アイスランドでは地熱発電や水力発電などの自然エネルギーで自給率100%を実現。ニュージーランドやインドネシア・フィリピンなども積極的に地熱を利用。日本の会社富士電機がそれらの国で大活躍。しかし日本は2013年(菅政権フィット成立)までの20年間、地熱発電の開発を停止。そのため、日本の地熱発電量は世界第7位まで落ち込みました。今はフィット制度のおかげで、地熱発電開発が進んでいます。

# 女川原発来年再稼働へ動き拡大

## 原子力規制委員会

### 11月16日現地調査

原子力規制委員会は11月16日女川原発2号機の安全性審査のため、現地調査を行うと発表。規制委員会はこれまで月1回女川原発のヒアリングを行っていましたが、10月急に8回ものヒアリングを実施し、ついに11月の現地調査に踏み切りました。



2011年に事故を起こした福島原発と同じマークI型(沸騰水型)は、女川原発1号機を除いてほとんど(福島第1・敦賀第1・浜岡第1・浜岡第2・島根第1)廃炉が決定しています。志賀原発1号機もマークI型で、直下に活断層が指摘され、廃炉濃厚です。その改良型(マークII型)が女川原発2号機です。東北電力は女川1号機について、廃炉か再稼働か一言も触れていません。県民にとって大事な1号機の廃炉問題を一言も口にせず、一方で「よりそうeネット」商業で毎日女川原発の風景を流し続け、2号機2018年再稼働にひたすら突っ走る東北電力です。

## 宮城県も3月まで避難計画作成、9月オフサイトセンター建設予算化

女川原発再稼働の条件になるのが、UPZ圏(30キロ圏内)自治体の避難計画の策定。圏内で作成がもっとも遅れていた石巻市の避難計画が3月に完成しました。もう一つの条件、オフサイトセンターも9月の宮城県議会で建設が予算化されました。

## マークII型新潟柏崎刈羽原発動かず、女川が焦点に

原子力規制委員会が沸騰水型で最初に動かそうとしたのが、新潟柏崎刈羽原発。規制委員会は安全性審査ですでに合格を与えています。しかし米山知事が「福島事故の検証および新潟の避難計画の検証が必要で、検証には3~4年かかる」と発表しています。

そのため柏崎刈羽原発の再稼働は事実上宙に浮いています。そこで注目の的となったのが、女川原発2号機です。原子力規制委員会は柏崎刈羽の審査が終わったのを機に、女川原発の審査に集中したのです。2018年、来年は「再稼働を阻止できるかどうか」の正念場となります。

## 日本、COP23で再び化石賞受賞

7日からボンで開催中のCOP23で、日本は再び化石賞(温暖化ガスを世界にふりまく国と認定されたもの)を受賞。理由は2つ。1つはアメリカ大統領トランプ氏と安倍総理との会談で、アジア向けに「石炭火力と原発インフラを輸出すること」を確認したため。COP参加者は「定量発電の原発は石炭火力に頼るので、温暖化に悪影響を与える」と認定。もう1つは日本国内32か所で石炭火力の新設および計画が進んでいるため。

きらきら発電市民共同発電所ニュース 11月号

〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12

電話・FAX 022(379)3777

HP <http://kirakirahatuden.com/>

メール [kirakirahatuden@outlook.jp](mailto:kirakirahatuden@outlook.jp)